

ヴィヴァルディ盤を聴く(8)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(8)—

1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および[ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデルのアナログ盤を聴き直してきました。今回もヴィヴァルディ盤を聴いてみることにしました。

2. ヴィヴァルディのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、バッハのアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

今回は、次のヴィヴァルディ盤を聴いていきます。

PHILIPS 6599-128

アントニオ・ヴィヴァルディ ヴァイオリン協奏曲変ロ長調
ヴァイオリン協奏曲ホ短調
ヴァイオリン協奏曲ト長調
ヴァイオリン協奏曲イ短調
ヴァイオリン協奏曲イ長調
ヴァイオリン協奏曲ト短調

イムジチ

PHILIPS 6599-129

アントニオ・ヴィヴァルディ 二つのヴァイオリンのための協奏曲ハ長調
ヴァイオリン協奏曲ニ短調
ヴァイオリン協奏曲ヘ長調
ヴァイオリン協奏曲ハ短調
ヴァイオリン協奏曲ニ長調
ヴァイオリン協奏曲ト長調

イムジチ

3. ヴィヴァルディのアナログ盤の試聴結果

上記の盤は、前報(7)の結果から、オランダ盤ということで TELDEC、R、第4時定数 Mid でしたので、その条件で聴いていきます。

上記の盤の曲は、「ラ・ストラヴァガンツァ」(註：風変わりなこと)と名付けられています。

PHILIPS 6599-128 盤のヴァイオリン協奏曲集は、TELDEC、R、第4時定数 Mid で聴いていきましたが、違和感はなく、ヴィヴァルディらしい明るく爽やかな表情の曲です。特段に「ラ・ストラヴァガンツァ」＝「風変わり」という印象はなく、敢えて言うと、軽快なところ、しみじみとした表情、元気のよいところなど、統一がとれないで自由闊達なところが特徴です。

PHILIPS 6599-129 盤のヴァイオリン協奏曲集は、TELDEC、R、第4時定数 Mid で聴いていきましたが、違和感はなく、6599-128 盤と同様の印象です。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンチスタティックやスピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G や Magic Mat II の結果をトレースでき、これらのレーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上